



早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター WAVOC 主催
朝日みらい教育賞 受賞記念

体験の言語化プロジェクト

初年度成果報告シンポジウム

～「対話型、問題発見・解決型教育」の実践～



日時 2015年1月23日(金) 19:00～20:30
会場 早稲田キャンパス 26号館302教室
事前申込不要・直接会場にお越しください

教室で何が起こっているの?!
教員の工夫と学生の反応を大公開!!

なぜ「体験の言語化」なのか？

近年、大学生が社会で起きている出来事を「当事者」として捉えられないことが課題として認識されています。それは、大学生が主体的に大学で学べない要因でもあります。大学生たちが「誰かの」ではなく「自分の」問題として社会の課題に取り組み、主体的に学ぶためには自分自身の体験をふりかえることが重要です。

それを実践するのが、グローバルエデュケーションセンター科目「体験の言語化」です！！

*「朝日みらい教育賞」とは？

朝日新聞社が今年度新設した賞です。
答えが1つではない複雑な問題に果敢に挑み、新たな価値を生み出す自律的な人材を育成する取り組みを表彰しています。

主催・問い合わせ



早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター
The Hinayama Ikuo Volunteer Center, Waseda University

TEL: 03-3203-4192

E-MAIL: wavoc@list.waseda.jp

「体験の言語化シリーズ」

「対話型、問題発見・解決型教育」の実践

【当日概要】

日時 2015年1月23日(金) 19:00~20:30

会場 早稲田キャンパス 26号館302教室

内容

・教員より:

グローバルエデュケーションセンター科目「体験の言語化」の授業内容および教授方法の工夫を紹介

岩井雪乃・兵藤智佳・秋吉恵・加藤基樹・

石野由香里・島崎裕子 (WAVOC教員)

・履修生より:

授業内での発表を再現および授業に対するコメント

・プロジェクトアドバイザーより

和栗百恵氏(福岡女子大学)

河井亨氏(立命館大学)

【「体験の言語化」で身につけたい3つの力】

1. 体験を「自分の言葉」で語る力
2. 体験から社会の課題を発見する力
3. 体験を学びの意欲へつなげる力

【授業の内容】

2014年度、「体験の言語化シリーズ」はWAVOC教員6名によって13クラスを開講しました。

2015年度は19クラスに増えます。クォーター制とし、8回の授業で1単位です。1科目15名の少人数、参加型で実施します。

受講生はボランティア、サークル、アルバイト、留学、スポーツなどの多様な体験を持ち寄ります。担当教員は「先生」として教えるよりも、「ファシリテーター」として大学生が自分の体験を言語化するプロセスを支援します。

【今後の展開】

科目「体験の言語化」は、現在も開発の途上です。当面の課題として、学部での学びにいかに関接するか、複数教員で教えるために教授法をいかに標準化するか、などがあります。さらに、学内の多様な学部や箇所に蓄積された類似のノウハウや知見と融合する道筋も模索しています。

履修生のコメント

物事に対して
「なぜ」という
視点を持つよう
になりました！

先生から
与えられた知識を単に理解
する方法から、自分にその知識
を引きつけて実質の伴った
理解を試みる方法へと
大きく変化しました！

毎回の
グループワークの
おかげで、自分の
意見を言うように
になりました！

専攻分野を越えて、
社会に出てからも
活用できる有意義な
学びができました！

8回の授業内容



第2回
個人の内面のふりかえり①
体験を思い出し、
気持ちをふりかえる

第1回
参加型授業の
心がまえと目標設定

第3回
個人の内面のふりかえり②
相手の事情と気持ちを
想像する

第4回&第5回
社会課題を発見するふりかえり
体験からつながる社会の課題を
発見し、自己を社会に文脈化する



第6回
発表の構成をつくる
「語り」で自分の思考過程
を発表する



第7回&第8回
発表とディスカッション

